

《担当者名》 本家寿洋 honke@hoku-iryo-u.ac.jp 坂上哲可 鎌田樹寛 浅野雅子 浅野葉子 朝日まどか 児玉壮志 桜庭聡
吉田彩華 依田泰知

【概要】

ディプロマポリシーに掲げられた5つの要件を満たす前段階として、これまでの作業療法に関する学習のまとめとする。総合臨床実習の経験をふまえ、臨床実習指導者による指導・監督のもと、作業療法評価から治療・再評価に至る一連の過程を通して、専門職としてのさらなる資質向上を目指し、知識や技術を深化する実習である。また、機能回復を目的とするだけでなく、対象者を全人的に理解した上で治療計画を立て、実施する。なお、実習は、総合病院や各領域（身体障害、精神障害、発達障害、老年期障害等）の専門病院で行う。

【学修目標】

作業療法学生として資質を高めるために、一連の作業療法の流れを臨床実習指導者の指導のもと実施することができる。

1. 作業療法学生として責任ある態度、行動をとることができる。
2. 総合臨床実習の経験をもとに、基本的な作業療法計画を立案することができる。
3. 臨床実習指導者の指導のもと、基本的な作業療法治療を実施することができる。
4. 臨床実習指導者の指導のもと、作業療法治療経過の効果判定を行うことができる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
	オリエンテーション	総合臨床実習の目的やその内容を理解する	担当者全員
	臨地実習	医療機関において実習を行う	臨床実習指導者
	学内セミナー	学生各々が総合臨床実習で経験したことをまとめ、サマリー発表を行う 実習で学んだことを共有し、学びを深める	担当者全員

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

臨床実習指導者評価60%、各種提出物およびセミナー発表内容40%で判断する。

【教科書】

その他：「臨床実習の手引き」を配布する。

【備考】

【授業実施形態】隣地での実習を基本とするが、感染状況によっては遠隔実習あるいは学内代替実習を行う。

【学修の準備】

「臨床実習の手引き」を熟読し、必要な準備を行うこと。

日頃の講義・演習の時間を十分に活用すること。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

（DP1）人は人の中でこそ人として生きていけます。お互いがお互いの命や生きることの意味を大切に思える心と感性、そのために必要な幅広い教養、そしてそれを対象者と共有することのできるコミュニケーションを身につけます。

（DP2）近代医療は“チーム医療”がとても重要です。各医療職の専門性はますます進化していきますので、今後さらに“チーム医療力”が病院・施設などの“臨床力”として特に重要になります。自分の職種と他の職種のそれぞれの役割と専門性をきちんと理解し、患者と家族をチーム医療力でしっかりとサポートできる能力を身につけます。

（DP3）医学の進歩によって救命ができるようになり、また平均余命も伸びてきました。これからは、健康を損なっている人、病气やけがで心身に障がいを持っている人たちが地域でその人らしい生活を営めるように、保健・医療・福祉の各分野で活躍する専門職種が連携しあって、地域全体で支援していくことが重要です。その視点を持って作業療法の専門的な知識と技術を適切に提供できる能力を身につけます。

（DP4）リハビリテーション専門職として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、適切に対処できる実践的能力を身につけます。

（DP5）世界の、そして我が国の人口構成の変化、価値観の変化、文化や暮らしの変化、そして絶えず発展し続ける科学、そして医学。その中で私たちは常に人々の健康とより良い暮らしへのニーズに作業療法科学をもって応えていかなければなりません。その専門性をより広く、深く、科学的に追及していくために、能動的に研修と研究を通して自己研さんしていける能力を身につ

けます。